

いたずらソーシャルネットの10年後

センシングや通信技術がさらに発達・普及することで、椅子やドアなどの身の回りのあらゆるものを使ったいたずらソーシャルネットが登場する。

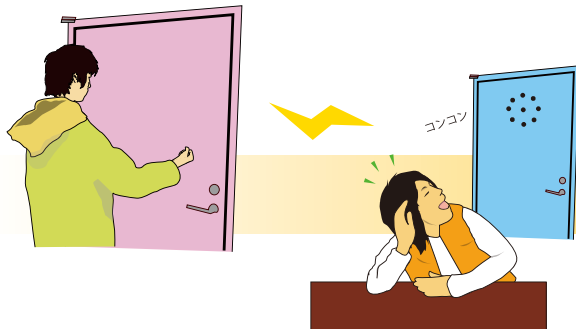
いたずらチェアー

椅子を揺らすいたずらが自動化され、遠隔操作できる。



いたずらノック (リアル版)

本物のドアにセンサが埋め込まれ、ネットワークでつながり、相手とノックコミュニケーション。



リフレクション

ノックが本当にコミュニケーションの一種となるかどうかを確かめる為のユーザーテストは行えなかった。圧力センサを用いてノックをしたかどうかを認識できたが、2つの筐体で感度に差が出てしまった。有線でセンサの値を得て作成したが、無線でセンサの値をとることはできなかった。日常生活のいたずらの分析から新しいコミュニケーションメディアを提案できる可能性を提示することができた。

さまざまなシーンで「ノック!」

case 1 彼女とのデート前に



出かける前にノックして



メイクでいつも遅刻しがちな彼女を焦らせる!

case 2 寝る前のあいさつに



寝る前に「おやすみ」のあいさつ



…寝てる間にいたずらもできちゃいます

case 3 テスト勉強中に



テスト前なのに意味が全然わからない! 誰か助けてー



まあまあそう焦らずに頑張ろう!

いたずらノックの仕組み

携帯電話をノックしたときの圧力を圧力センサで値をとり、その値をクライアントの Java プログラムでサーバへ送信する。サーバで受信した値をクライアントへ送信し、クライアント側でデータに応じた処理を行うことでノック音を出す。

